ノート

大阪湾の浅海域で採捕されたオニオコゼ幼魚

佐野雅基

Capture of a Juvenile Devil Stinger *Inmicus japonicus* in a Shallow Area of Osaka Bay

Masaki Sano

オニオコゼ *Inimicus japonicus* は，大阪湾では小型底曳き網や刺し網などで漁獲される高級魚である．定着性が高いため地先型栽培漁業の対象種として注目されており，大阪府でも，近年放流技術を開発して高い放流効果を上げている．しかし，その生態については十分に解明されておらず，特に幼稚魚の生態は採捕事例が少ないため，未解明の部分が多い．今回，これまで大阪湾で採捕されたオニオコゼの中でも最も小型の個体を，大阪府立水産試験場が開催した「夏休み海の教室」で実施した地曳き網体験の際に採捕したので報告する．

採捕年月日は2006年7月23日，採捕場所は大阪湾南部に位置する泉南郡岬町谷川の東川（通称「落合川」）河口部である（図1）．この場所の底質は，沖合側が砂泥底となっており，砕波帯付近が大型の礫が点在する砂礫帯となっている．使用漁具は地曳き網（幅29m，高さ3m，袖網11節，袋網尻22節）で，これを沖合から岸に向かって約100m曳網した．なお，曳網場所の水深は最深部で約4mであった．採捕されたオニオコゼ幼魚は1尾で，全長36.5mm，体重0.77gであった（写真1）．

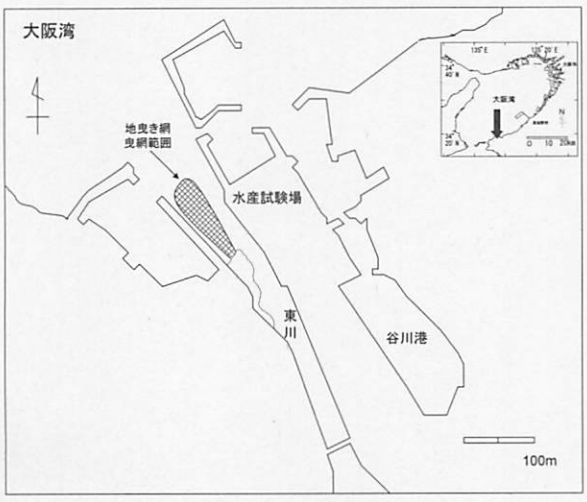

図1　オニオコゼ幼魚の採捕場所

過去に大阪湾で採捕された最も小型のオニオコゼは，1991年9月17日に岬町淡輪地先で漁獲された全長56.0mmのもの[1]で，今回の魚体はこれより19.5mm小型で，採捕時期も約2ヵ月早い時期となった．オニオコゼ幼魚の採捕報告事例は少なく，佐賀県の2例（全長29.8，32.5mm）と愛媛県の1例（全長26.8mm）[2]および兵庫県の1例（全長54.3mm）[3]などが報告されている．これらの報告によると採捕場所は，水深が0.6mから10mの海域で，砂泥底に礫が点在あるいは

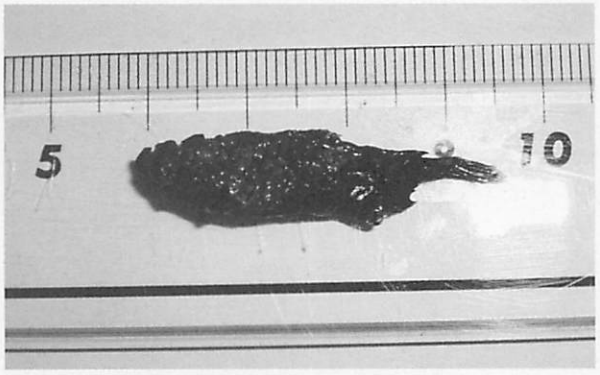

写真1　採捕されたオニオコゼ幼魚
（撮影：有山啓之）

石が投入された場所，または岩礁上に小石が分布する場所とされている．また，過去の実験で，オニオコゼ幼魚は隠れ場となる海藻やカキ殻のある場所を好むとされている[4]ことから，今回のオニオコゼ幼魚は，砕波帯付近の砂礫帯に生息していたものと推察された．

文　　献

1) 大阪府立水産試験場 (1992) 平成3年度地域特産種増殖技術開発事業 魚類・甲殻類グループ総合報告書，大1～大28.

2) 愛媛県中予水産試験場・愛媛県中予水産試験場東予分場 (1992) 平成3年度地域特産種増殖技術開発事業 魚類・甲殻類グループ総合報告書，愛1～愛53.

3) 玉木哲也・宇野政美 (1999) 砕波帯におけるオニオコゼ幼魚の出現．兵庫水試研究，**36**，25-27.

4) 大阪府立水産試験場 (1994) 平成5年度地域特産種量産放流技術開発事業 魚類・甲殻類グループ総合報告書，大1～大23.